



令和7年度
学校評価アンケート集計結果



合志市立西合志第一小学校

目 次

1	教育方針・目標の理解	1
2	楽しい学校生活	1
3	学校や家庭での連携協力体制	2
4	学習理解と授業づくりの工夫	2
5	道徳、心の教育の充実	3
6	あいさつの励行	3
7	一人一人の児童の尊重	4
8	学校の支援体制	4
9	児童理解	5
10	規範意識	5
11	いじめや問題への対応	6
12	事故防止と安全対策	6
13	児童の体力向上	7
14	学校行事や地域行事への参加と工夫	7
15	施設・設備の安全管理	8
16	学校の情報発信	8
17	家庭・地域・学校の連携協力	9
18	学校のICT活用	9
19	学校の働き方改革	10

1 教育方針・目標の理解

1	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
教育方針・ 目標の理解 ³	児 童	あなたは、毎月のめあてや学級のめあてに 気を付けて生活していますか。	47%	32%	9%	2%	10%	3.38
	保護者	学校の教育方針や教育目標、毎月の生活目 標などを理解していますか。	13%	68%	8%	8%	3%	2.88
	関係者	学校の教育方針や教育目標、毎月の生活目 標などを理解していますか。	31%	63%	6%	0%	0%	3.25
	教職員	教育方針や教育目標、毎月の生活目標など を意識して、学級経営や学校運営に努めて いますか。	22%	78%	0%	0%	0%	3.22
	成果と 課題	教職員、児童ともに肯定率が100%だった。職員間で教育目標について共通理解が図られ、児童とも共有した中で教育活動を行っていることがうかがえる。地域関係者の肯定率も90%を超えており、良好な結果である。保護者についても、肯定率が約80%と、昨年を10%近く上回った。しかし、平均点が2.79であり、児童、学校関係者、教職員の数値と比べると依然として低い。年度当初の校長からの説明、学校便りを通じて教育目標や教育方針について説明しているが、さらなる学校からの発信が必要である。						
次年度 に向け て	次年度から新しい担任の体制づくりも行うので、保護者や関係者については、学校教育目標や方針だけでなく、新しい体制についても学校便りやホームページ等で説明し、学校と保護者・関係者が連携した取り組みの推進を図る。また、児童に対しては、学校教育目標と学級目標や児童会目標をリンクさせながら、教育活動の更なる活性化に努める。							

2 楽しい学校生活

2	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
楽しい学校生活	児 童	あなたは、友達と仲良く、楽しく学校生 活が送れていますか。	68%	24%	3%	2%	3%	3.63
	保護者	お子さんは、友達と仲良く、楽しく学校 に登校できていますか。	50%	39%	8%	3%	0%	3.35
	関係者	子どもは、友達と仲良く、楽しく学校生 活が送れていると思いますか。	56%	44%	0%	0%	0%	3.56
	教職員	子どもは、友達と仲良く、楽しく学校生 活が送れていますか。	44%	44%	0%	0%	11%	3.50
	成果と 課題	肯定率については、児童、保護者、教職員と約90%であり良好な結果である。教師・保護者と児童の認識には若干のずれも年々埋まってきている。ただ、依然として否定率が2%の児童については、学校が楽しく感じられない要因を把握する必要がある。また、保護者でも一定数の否定的な意見があるので今後さらなる連携も必要である。						
次年度 に向け て	県や市の学力学習状況調査の結果や、心のアンケートの結果を分析し、否定的な考えの子どもたちの背景を探るようにする。また、学習指導と学級経営についても更なる充実を目指す。学習指導では教師の授業力向上と児童に対する個別指導の充実を図り、分かる授業づくりを組織として取り組む。教師と児童の信頼関係、児童同士の人間関係を築きながら、児童の居場所づくり、絆づくりを重点に置いた学級経営を行う。							

3 学校や家庭での連携協力体制

3	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均点
学校や家庭での連携協力体制	児 童	先生たちは、仲良く協力し合っていますか。	70%	18%	3%	1%	8%	3.71
	保護者	家庭では、家族が連携・協力して子どもの指導に取り組んでいますか。	39%	50%	11%	0%	0%	3.27
	関係者	学校職員は、連携・協力して子どもの指導に取り組んでいますか。	44%	56%	0%	0%	0%	3.44
	教職員	組織の一員として互いに連携協力して子どもの指導に取り組んでいますか。	33%	67%	0%	0%	0%	3.33
	成果と課題	学校関係者・教職員は肯定率が100%であり良好な結果が得られた。児童・保護者も肯定率が概ね90%で、昨年より10%近く上回っている。昨年度よりもさらに4者の意識が高まってきている。しかし、保護者の中には1割近く否定的な考えのところもあるので、教職員がチームで児童の指導にあたっていく取組を進めていくことが大切だと思われる。						
次年度に向けて	学校アンケートでは良好な結果が得られているが、今後も、教職員同士の情報の共有を大切にし、地域、保護者との連携の良さを大切にした教育活動を推進していく。一方、家庭内の連携では、「夢実現プロジェクト」の啓発に努め、HOMEプロジェクトを更に推進させていく。本校の「すこやか週間」の取組も続けて行っていきたい。							

4 学習理解と授業づくりの工夫

4	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均点
学習理解と授業づくりの工夫	児 童	あなたは、授業に進んで取り組み、学習内容を理解できていますか。	48%	37%	7%	3%	5%	3.37
	保護者	お子さんは、進んで授業に取り組み、学習内容を理解できていますか。	26%	55%	16%	1%	2%	3.07
	関係者	学校は、子どもが楽しく分かる授業作りに努めていると思いますか。	31%	50%	6%	0%	13%	3.29
	教職員	どの子にも楽しい授業、分かる授業づくりに努めていますか。	44%	56%	0%	0%	0%	3.44
	成果と課題	教職員は楽しい授業づくり・わかる授業づくりに努めているかという質問に対して肯定率は100%である。しかし、児童の学習意欲・学習理解についても肯定率が昨年度より若干下がっている。保護者の我が子の学習意欲・学習理解については否定率も依然として約20%であり、教職員と児童・保護者には意識の違いが見られる。保護者の思いをしっかりと受け止めながら、全ての児童に理解できる授業づくりに努める必要があり、そのために教師の授業力向上が重要である。						
次年度に向けて	全ての児童に理解できる授業づくりのために、授業のユニバーサルデザイン化の推進、ICT活用の推進、学習規律の徹底を進める必要がある。校内研修で教職員の指導力向上について研修しているが、研修の機会を更に確保し、教職員の指導力向上に努めていく。また、学力調査の正答率40%以下の児童を継続して把握し、個別指導の時間の確保を行うとともに、全校児童に対して家庭学習で予習・復習に取り組むよう指導していく。保護者にも家庭学習の重要性を知らせ、児童の学力向上に努めていく。学校関係者には、学校評議員会など子どもたちの様子を見ていただく機会をを複数回設けるようにする。							

5 道徳、心の教育の充実

5	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかといえ ばそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
道徳、 心の教育の充実	児 童	あなたは、相手の気持ちを考えて話したり、行動したりすることができていますか。	47%	38%	9%	1%	5%	3.38
	保護者	お子さんは、思いやりの心や感謝の心が育っていますか。	35%	56%	5%	2%	0%	3.24
	関係者	学校は、思いやりの心や感謝の心を大切にしている心の教育に努めていると思いますか。	50%	44%	0%	0%	1%	3.53
	教職員	思いやりの心や感謝の心など、児童の心の教育に努めていますか。	44%	56%	0%	0%	0%	3.44
	成果と課題	肯定率は3者(保護者・関係者・教職員)とも約90%以上であり、評価結果は全体的に良好である。地域や過程の中で児童が肯定的に受け入れられていることがうかがえる。一方、児童の否定率が10%である。児童同士のトラブルの際にマイナスの言葉を使ってしまう児童もいる。道徳教育、人権教育、ことば教育等、今後も心の教育を計画的に総合的に推進していかなければならない。						
	次年度に向けて	心の教育の要として、道徳の授業、人権学習に更に取り組んでいく。道徳は、担任入れ替えの授業や地域の素材を活用しながら、考え議論する道徳授業の展開に努めていく。また、人権学習について教員研修を深め、「差別を見逃さない、許さない心」を更に児童に育成していく。ことば教育については、朝の詩の朗読や、岩元先生の指導など次年度も継続して取り組んでいく。						

6 あいさつの励行

6	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかといえ ばそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
挨拶の励行	児 童	あなたは、家族や地域の人や先生や友達に進んで挨拶していますか。	57%	36%	3%	1%	3%	3.54
	保護者	お子さんは、家族や地域の人や先生や友達に進んで挨拶していますか。	31%	47%	16%	6%	0%	3.02
	関係者	子どもたちは、地域の中で進んで挨拶をしていますか。	31%	56%	13%	0%	0%	3.19
	教職員	子どもに、家族や地域で進んであいさつをするように指導していますか。	44%	44%	11%	0%	0%	3.33
	成果と課題	あいさつについては本校の大きな課題であった。肯定率は児童が90%を超えているものの、保護者、地域、教職員では否定率が10%である。このことから、児童はあいさつができていると思っていても大人から見るとまだ課題があることがわかる。児童に望ましいあいさつの在り方を提示するとともに今後も引き続きあいさつについては日常的な指導を続けていくことが必要である。						
	次年度に向けて	今年度は「さきどりだいいち」というキャラクターを活かして、学校内外でのあいさつ等の指導に努めた。次年度以降も、あいさつの大切さについて家庭啓発も行いながら、家庭・地域・学校が連携した指導を行っていく。また、教師側からのあいさつ指導ばかりではなく、児童会を活用しながら、児童自身があいさつの重要性を認識し、行動に移せるように指導していく。						

7 一人ひとりの児童の尊重

7	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
一人一人の児童の尊重	児 童	あなたは、周りの人たちから大切にされ、また、周りの人を大切にしていますか。	70%	20%	4%	1%	5%	3.67
	保護者	お子さんは、家庭や地域や学校から大切にされていますか。	52%	47%	2%	0%	0%	3.50
	関係者	学校は、一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていますか。	31%	63%	0%	0%	1%	3.33
	教職員	一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていますか。	67%	33%	0%	0%	0%	3.67
	成果と課題	教職員の肯定率が100%であるのに対して、児童の10%は否定的または分からないと回答し、保護者の2%は否定的に回答している。児童の平均点は昨年度を上回っているが、一人ひとりを大切にした指導ができていないととらえている児童や保護者が数名いるということ意識しながら、保護者への説明を丁寧に行い、児童が自分を大切にしてくれていると思えるような寄り添った指導と集団づくりを引き続き行っていく必要がある。						
次年度に向けて	今後も、普段から児童の良さや成長を積極的に見つけ、肯定的な児童への声掛けに努める。また、児童と教師の信頼関係づくりに努め、どんなことでも相談できる教職員の雰囲気や体制づくりに努める。すべての児童に対して年に数回の教育相談を実施しているが、普段から児童の様子を全職員で見守り、また、「第一っこアンケート」なども活用しながら児童理解の機会を定期的に設定し共通理解を更に図っていく。							

8 学校の支援体制

8	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
学校の支援体制	児 童	あなたは、学習で分からない時や、困った時に先生に相談できますか。	54%	29%	7%	6%	4%	3.36
	保護者	子どもさんのことについて、気になることがあれば気軽に学校に相談できますか。	37%	55%	5%	2%	2%	3.30
	関係者	学校は、支援を必要とする子どもについて、家庭と共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	19%	56%	6%	0%	19%	3.15
	教職員	気になる子どもについて、積極的に家庭に連絡を取り、家庭と共通理解を図りながら子どもの支援に取り組んでいますか。	33%	44%	0%	0%	22%	3.43
	成果と課題	保護者の肯定率が90%を超えており、平均点も昨年度を上回っておいる。気軽にお学校に相談できると思っている保護者が増えている一方、教職員の肯定率が保護者を下回っており平均点も低下している。今後も家庭やSC、SSW、関係機関とも連携を図る必要がある。また、困り感を持つ児童に周囲が気付くことができるよう、職員間でも密に情報交換を行っていきたい。						
次年度に向けて	児童や保護者の教育的ニーズに対応できるよう、学校との相談体制があることを保護者に周知させていく。特別支援教育についてインクルーシブ教育の取組について、保護者全体に周知する機会を設定し、特別支援教育への理解と啓発を行なう。							

9 児童理解

9	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
児童理解	児 童	先生や家族は、あなたの良いところや、あなたの気持ちを理解してくれますか。	55%	29%	6%	3%	7%	3.46
	保護者	家庭では、子どもの良さや個性を理解し、子どもの力を伸ばすように心がけていますか。	27%	66%	3%	0%	3%	3.25
	関係者	学校では、子どもの良さを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。	44%	44%	0%	0%	2%	3.50
	教職員	子どものよさを見つけ、子どもの良さを伸ばそうと努めていますか。また、子どもを理解しようと努めていますか。	56%	44%	0%	0%	0%	3.56
	成果と課題	児童の否定的または分からないと回答が16%と、昨年より若干低下している。教師や保護者は、それぞれの児童の良さや成長についての理解を深めているが、児童の良さや成長について、それぞれの児童にさらに認識させていかなければならない。多方面から児童の良さや成長を把握するために、全職員で情報共有の機会を設定していく必要がある。						
	次年度に向けて	今年度より、「観つめる会」を設定し、児童理解の機会を設けたが今後もさらに職員間の共通理解が図れるようにする。また、働き方改革を更に推進し、教師が児童に向き合う時間を確実に確保するとともに、普段から児童と教職員との信頼関係づくりに努め、児童の良さや成長についてそれぞれの児童に言葉で伝えていくように努める。						

10 規範意識

10	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
規範意識	児 童	あなたは、ルールやマナーを守って学校生活を送っていますか。	46%	44%	4%	5%	1%	3.32
	保護者	家庭では、ルールやマナーを守るなど、規範意識を育てていますか。	47%	45%	2%	0%	6%	3.48
	関係者	子どもは、地域や学校でルールやマナーを守って生活していると思いますか。	31%	69%	0%	0%	0%	3.31
	教職員	学校では、ルールやマナーを守るなど、規範意識の醸成に努めていますか。	67%	33%	0%	0%	0%	3.67
	成果と課題	児童の10%は否定的または分からないと回答している。規範意識について、保護者の92%、教職員の100%が規範意識の育成に努めていると回答しているが、児童には徹底できていない。保護者や教職員の目が届くところではルールやマナーを守っているが、目の届かないところではルールやマナーを守っていない児童もいる。誰も見ていないところでも、児童自身が規範意識をもって行動できるようにしていく必要がある。						
	次年度に向けて	規範意識の育成については、学校だけでなく、家庭・地域・学校が連携しながら取り組んでいく必要がある。学校では道徳の時間やホームルーム等を中心にして児童の規範意識の育成に取り組んでいるが、児童自らが規範意識について考え実行できるよう、児童会主体で「生活のきまり」を見直す機会を設けていく。また、職員間でも「生活のきまり」などは共通理解を図り、全員が同じ足並みで指導できるようにする。						

1 1 いじめや問題行動への対応

11	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
いじめや問題行動への対応	児 童	あなたは、いじめや問題があった時に注意をしたり、誰かに相談したりできますか。	46%	30%	11%	4%	9%	3.30
	保護者	家庭では、いじめや問題があったとき学校と連携しながら解決に努めていますか。	39%	45%	6%	2%	8%	3.32
	関係者	学校は、いじめや問題にきちんと対応していると思いますか。	19%	63%	0%	0%	19%	3.23
	教職員	いじめや問題があったとき、保護者と連携しながら対応していますか。	33%	56%	0%	0%	11%	3.38
	成果と課題	教職員は肯定率約90%であるが、児童の約25%が否定的または分からないと回答しており、保護者の16%が否定的または分からないと回答している。平均点は昨年度より伸びているが、教職員と児童・保護者との認識には若干のずれが見られる。児童数が少なく、教職員にとってはいじめに気付きやすい環境にあるが、このことを真摯に受け止めなければならない。今後も教職員が日々児童の観察を細やかにを行い、児童が相談しやすい環境づくりに努めていくとともに、いじめを見たときにきちんと注意できる児童を育てていく必要がある。						
	次年度に向けて	次年度も月1回の定期的な生活アンケートを実施し、いじめ問題等の早期発見、早期対応及び予防的対応に取り組んでいく。気になる児童に対しては積極的に教育相談を行うとともに、困ったことがあればいつでも、どこでも相談できるということを全児童に確実に周知していく。また、道徳の時間、人権学習を充実し、いじめを見たらきちんと注意できる児童の指導に努める。教師側からの指導だけでなく、児童自らが安心安全な学校にするための児童会活動の活性化を図っていく。						

1 2 事故防止と安全対策

12	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
事故防止と安全対策	児 童	あなたは、交通事故防止やあぶないことをしないように心がけて生活していますか。	75%	16%	3%	2%	4%	3.71
	保護者	家庭では、交通事故防止や不審者対策など子どもの安全について指導していますか。	61%	37%	0%	0%	2%	3.62
	関係者	学校は、交通事故防止や不審者対策など子どもの交通安全に努めていると思いますか。	38%	63%	0%	0%	0%	3.38
	教職員	交通事故防止や不審者対策など子どもの安全対策に努めていますか。	44%	56%	0%	0%	0%	3.44
	成果と課題	肯定率は4者(児童・保護者・関係者・教職員)とも90%を超えており、児童、保護者においては平均点も伸びている。また、今年度は交通事故等、児童の事故は起こっていない。家庭や学校での交通事故防止や不審者対策など子どもの安全について指導している成果であると考えられる。						
	次年度に向けて	児童の安全対策については繰り返し指導が必要であり、学級指導及び毎週の一齐下校の機会を通して指導を徹底していく。防災、不審者対応等も保護者、地域との連携もできており、今後も継続して取り組んでいく。次年度も計画的に安全対策に取り組んでいく。						

1 3 児童の体力向上

13	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
47 児童の 体力向上	児 童	あなたは健康のために、進んで外遊びやスポーツをし、食事や寝る時間を考えて生活していますか。	56%	31%	6%	2%	5%	3.48
	保護者	家庭では、子どもの健康保持増進のため、感染防止や体力の向上など健康に対する意識を育てていますか。	42%	50%	3%	0%	5%	3.40
	関係者	学校は、子どもの健康保持増進のため、感染防止や体力の向上など健康に対する意識を育てていると思いますか。	56%	31%	0%	0%	13%	3.64
	教職員	子どもの健康保持増進のため、感染予防や体力の向上など健康に対する意識を育てていますか。	44%	44%	0%	0%	11%	3.50
	成果と課題	3者(保護者・関係者・教職員)の肯定率は良好な結果であった。家庭でも、学校でも、感染防止対策、毎週のフッ化物洗口、ふれあい週間時の基本的生活習慣の定着等、児童の健康に対する指導の成果と考えられる。一方、児童の13%は否定的または分からないと回答しており、健康のことを考えて自ら行動(運動、食事、睡眠)できる児童を確実に育てる必要がある。新スポーツテストの結果は県平均よりも劣る項目もみられ、児童の体力低下が感じられる。体育授業、業間体育、日頃の遊び等での体力向上を図る必要がある。						
次年度に向けて	次年度も、すこやか週間の取組を継続し基本的生活習慣の定着に努めていく。感染症予防対策に留意しながら、児童の運動能力の向上、健康意識の向上に向けた取組を行っていく。また、保健委員会による取組による保健指導も引き続き行っていく。							

1 4 学校行事や地域行事への参加と工夫

14	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
学校行事や 地域行事への 参加と工夫	児 童	あなたは、学校行事や地域の行事に進んで参加していますか。	52%	32%	5%	4%	7%	3.42
	保護者	家庭では、学校行事や地域の行事に進んで参加していますか。	26%	60%	10%	5%	0%	3.06
	関係者	学校では、運動会などの学校行事が工夫されていると思いますか。	63%	31%	0%	0%	6%	3.67
	教職員	運動会などの学校行事の工夫や精選がされていると思いますか。	44%	33%	11%	0%	11%	3.38
	成果と課題	児童・保護者の肯定率が8割近くと昨年度より1割近く低下している。また、教職員においては平均点は上がっているものの肯定率が8割にも届いていない。地域の行事については、合生地区夏祭りや合生地区どんどこやを実施することができ、児童や保護者が参加できたことは嬉しいことであった。しかし、その他の地域の行事(合生コミュニティ)については参加率をあげることで教職員の理解を図ることが課題である。						
次年度に向けて	学校行事については働き方改革のことも考え、職員で十分に協議しながら、学校行事の内容の工夫や精選を行っていく。地域の行事と学校行事を連携させながら、学校行事の在り方を再検討していく。地域の行事については、合生コミュニティと連携しながら、児童や保護者が更に参加できるようにお知らせしたり、PTA 役員会等でも協力体制を構築したりしていく。							

15 学校施設・設備の安全管理

15	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
学校施設・設備の安全管理	児 童	学校の教室や廊下、トイレ、運動場などは、安全で使いやすいと思いますか。	51%	32%	4%	5%	8%	3.40
	保護者	学校は、施設・設備が整い、美しい環境が整備されていると思いますか。	13%	56%	21%	8%	2%	2.75
	関係者	学校は、施設・設備が整い、美しい環境が整備されていると思いますか。	31%	56%	0%	6%	6%	3.20
	教職員	学校は、施設・設備が整い、美しい環境が整備されていると思いますか。	11%	89%	0%	0%	0%	3.11
	成果と課題	保護者の平均点が昨年より上がったが依然として30%は否定的または分からないと回答しており、施設・設備については課題がある。実際に本校の校舎は老朽化が進んでおり、児童のトイレも和式トイレが残っている。数年後には校舎の大規模改修が予定されているが、改修の必要な個所については教育委員会と相談しながら施設・設備の整備に努めている。						
	次年度に向けて	学校設備・整備の安全管理については引き続き児童の安全を最優先して取り組んでいく。数年後の校舎の大規模改修を見越して、現在の校舎の安全面・環境整備面を教育委員会と連携しながら準備を進めていく。事務職員も校内の設備の管理や改善に積極的に関わり学校環境を豊かで美しいものにしていく。						

16 学校の情報発信

16	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えはそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均 点
学校の情報発信	児 童	学校だよりや学級だより、保健だよりや図書だより等を読んで、学校生活に生かしていますか。	41%	33%	4%	8%	14%	3.24
	保護者	家庭では、学校だよりや学級だより、保健だより等で、学校の予定や様子を確認していますか。	45%	48%	3%	0%	3%	3.43
	関係者	学校は、学校だよりや学級だより、保健だより等で、学校の予定や様子が十分に発信されていると思いますか。	56%	44%	0%	0%	0%	3.56
	教職員	学校だよりや学級だより等の各種配布文書やホームページなどで、学校からの情報が十分発信されていると思いますか。	56%	44%	0%	0%	0%	3.56
	成果と課題	関係者・教職員の肯定率は100%である。これは、学校だよりを定期的に発行し、関係者に届けていることが大きく影響している。保護者の肯定率も93%と高く、学校からの情報発信は有効に活用されていることが伺える。情報発信が保護者や地域にも肯定的に受け入れられており非常にありがたい。今後も学校の情報発信を行い、保護者・地域との連携を更に図っていく。						
	次年度に向けて	学校からの情報発信として学校だよりや学級だより、保健だより等、学校の予定や様子を知らるために有効に活用されている。次年度も保護者や地域の方との連携協力を得るために情報発信を定期的に行っていく。ところで、情報発信のためには時間の確保も重要である。現在は紙媒体の情報が主であるが、働き方改革のために学校ホームページの活用を更に推進していく						

17 家庭・地域・学校の連携協力

17	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えばそう思う	2 どちらかといえ ばそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均点
家庭・地域・学校の連携協力	児童	学校と家庭と地域は、協力し合っているか。みんなの教育を行っていると思いますか。	62%	29%	1%	2%	6%	3.61
	保護者	家庭では、学校や地域と進んで連携しながら子育てをしていますか。	31%	54%	10%	0%	5%	3.22
	関係者	学校は、家庭や地域と連携協力しながら教育活動を進めていると思いますか。	50%	44%	0%	0%	6%	3.53
	教職員	家庭や地域と連携協力しながら教育活動を進めていますか。	22%	67%	0%	0%	11%	3.25
	成果と課題	3者(児童・関係者・教職員)の肯定率は90%を超えているが、「どちらかといえばそう思う」の保護者の割合が高く、家庭と学校の連携協力体制はできていないものの、よりしっかりした連携協力体制づくりが必要である。共働きが多く、保護者と学校との連携協力の時間確保をどのように生み出していくかが課題である。						
	次年度に向けて	保護者、地域、学校との連携協力体制を推進するために、PTA活動と合生コミュニティとの連携の在り方を探る。西合志中学校区学校運営協議会だけでなく、本校の学校評議員会やPTA役員会の中でも、PTA活動と合生コミュニティと学校の連携協働について協議していく。						

18 学校のICT活用

18	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えばそう思う	2 どちらかといえ ばそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均点
学校のICT活用	児童	あなたは、学習のために進んでタブレットを活用していますか。	57%	23%	4%	11%	5%	3.33
	保護者	学校のホームページを見られたことがありますか。	52%	32%	5%	3%	8%	3.44
	関係者	学校のホームページを見られたことがありますか。	25%	6%	19%	13%	38%	2.70
	教職員	授業の中で、積極的にICTの活用に努めていますか。	22%	67%	0%	0%	11%	3.25
	成果と課題	児童の80%が「学習のために進んでタブレットを活用している」と回答し、教職員の90%が「積極的に授業でのICT活用に努めている」と回答している。学校では授業の中でICT活用が進んでいる。しかし、児童の10%が否定的な意見を持っている。タブレットの活用については、今後も家庭での使い方の約束や情報モラルについて、児童・保護者への確認が必要である。						
	次年度に向けて	授業でのICT活用、Eライブラリの活用について次年度も推進していく。授業に必要ない目的でタブレットを使ったり、家庭で、学習以外の目的でタブレットを使ったりする児童もあり、タブレットの活用について、家庭での使い方の約束や情報モラルについて、児童・保護者への指導を行い、学習での効果的な活用を更に推進していく。次年度から、タブレット端末も新しくなるので、更なる効果的活用を図る。						

19 学校の働き方改革

19	対象	質 問	4 そう思う	3 どちらかとい えはそう思う	2 どちらかとい えそう思わない	1 思わない	0 分からない	平均点
学校の働き方改革	児 童							
	保護者	学校では、働き方改革が進んでいると思いますか。	39%	35%	5%	0%	21%	3.43
	関係者	学校では、働き方改革が進んでいると思いますか。	13%	44%	6%	0%	38%	3.10
	教職員	働き方改革のために、自分で心がけていることはありますか。	56%	33%	0%	0%	11%	3.63
	成果と課題	<p>学校の働き方改革について保護者、関係者、教職員について質問した。保護者の26%が否定的または分からないと回答しており、昨年の41%よりは減少している。教職員では9割近くが働き方改革のために自分で心がけていることがあると回答している。本校の教職員の中に超過時間勤務者は少ないが、実際は休日出勤者や学級事務を家庭で行っている教職員もいる。校内会議の精選や、会議のペーパーレス化、フォームスでの児童出席確認など働き方改革に取り組んではいるが、児童や保護者対応、校務分掌の会議出席、教材研究などについては課題でもある。また、保護者や地域に対しては引き続き、学校の多忙感や学校への協力要請など啓発をしていく必要がある。</p>						
次年度に向けて	<p>少ない教職員であるがゆえに、校務分掌の数も多く対外的な出張が多い。また、単学級であり教材研究なども一人で行わなければならない。教職員は働き方改革のために意識を変えたり、工夫したりしているが、校内だけの取り組みでは無理がある。次年度以降新しい担任制の導入について地域や保護者の理解を得ながら職員の時間の確保に努めたい。</p>							